

# 算数科パート(6年ブロック)

単元名 速さ

(目指す児童像)

自ら進んで問題や課題を解決しようとする子

## つきたい力

(B 量と測定) (4) 速さ  
速さについて理解し、速さを求めることができるようにする。

①速さや道のり、時間を求めることができる力

速さ、道のり、時間の公式を実際の場面と結び付けながら生活や学習に活用することができる。

②単位量当たりの大きさから速さを考える力

数直線から自分の考えた式を説明し、答えを導くことができるようになる。

<学習内容の確実な定着を図る指導の工夫・改善>

### 1 授業形態の工夫

- ① 効果的な少人数指導
- ② 小グループでの話し合い

### 2 視覚的資料の工夫

- ① 既習事項の掲示と振り返り
- ② 図・式・数直線・言葉に関連づけて考える習慣

<学習意欲を高める指導の工夫・改善>

### 3 主体的な学びを促す工夫

- ① 問題の工夫
- ② 自力解決を支援する工夫
- ③ 学習活動の工夫

### 4 評価の工夫

- ① 話し合い活動の工夫
- ② 声掛けの工夫
- ③ 机間指導の工夫

## 単元の目標

- 速さを単位量当たりの大きさの考えを用いて数値化したり、実際の場面と結び付けて生活や学習に用いたりしようとする。  
(算数への関心・意欲・態度)
- 速さの表し方や比べ方について単位量当たりの大きさの考えを基に数直線や式を用いて考え、表現する。  
(数学的な考え方)
- 速さにかかわる数量の関係において、速さや道のり、時間を求めることができる。  
(図形や表現についての技能)
- 速さは単位量当たりの大きさを用いると表すことができることを理解する。  
(数量や図形についての知識・理解)

## 【本時の授業の実践と考察】

本時(2/10時)

(※ 考察)

1 問題を提示し課題をつかむ。 手だて2-①

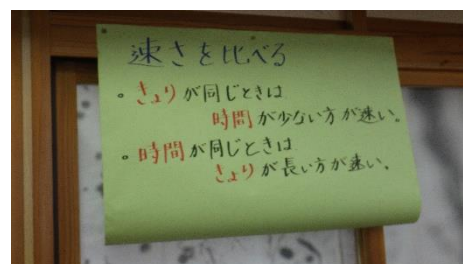
問題 「3人の速さを比べよう！」

	距離 (m)	時間 (秒)
スネ夫	40	8
ジャイアン	40	9
のび太	50	9

※既習の言葉を使って、子どもたちが前時の内容を振り返ることができた。

2 本時の学習課題をとらえる。 手だて1-②、2-①

課題 スネ夫とのび太の速さを比べる方法を考えよう。



T: 距離も時間もばらばらな二人、どうすれば比べられるかな？

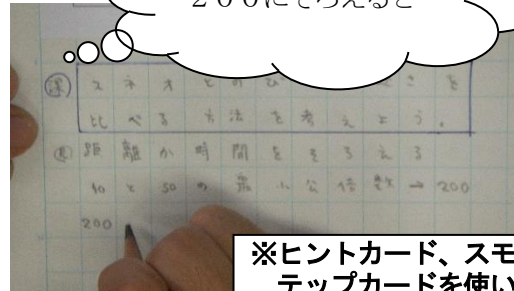


C: 時間か距離をそろえればいい。

3 自力解決をする。手だて②-②



C: 1mあたりにかかる時間を出してみよう...



C: 距離を最少公倍数で200にそろえると...

※ヒントカード、スモールステップカードを使い、自力解決の一助とした。

4 グループで伝え合いをする。手だて①-②

5 全体で考えを交流する。手だて④-①



T: すべての考え方に共通することは何か？

まとめ1 速さを比べるには、きよりや時間をそろえればいい

6 適用問題を解き、まとめ②をする。手だて③-②、③

T: どうしてこの考えをつかって解いたのだろう？

問題 3人の順位を決めよう！		
	距離(m)	時間(秒)
つえもん	39	6
出水杉くん	77	11
しげちゃん	48	8

② 1あたりの単位量あたり大きさを比べたほうが、いつでも比べられる。

C: 1あたりの単位量あたりで比べたほうが、便利。公倍数で比べると、数が大きくて大変だから。

まとめ2 1あたりの単位量あたりで比べたほうが、いつでも比べられる。

【指導講評】さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事

田中 和浩先生

- 適用問題が、まとめ2につながるよう、数字の設定などが考えられていた。
- 前時で実際に速さくらべを体験させたことが効果的だった。また、本時でも既習の言葉を使って、速さを比べる活動ができていた。
- 授業を行う際には、本時だけでなく次の授業も考えることが大事。評価も同様。どこまでを目標とするかをしっかり確認して取り組んでいくことが必要。
- 自力解決では、すべての児童が自分の考えをもてなくてもよいとする場合があってもよいのではないか。まとめや適用問題で理解させていくという考え方もある。本時のねらいに応じて調整していくとよい。